

どうぶつこうえんニューズ



千葉市動物公園
Chiba Zoological Park

No.71

2009

春

チンパンジー舎のタワー



昨年10月（株）動物公園協力会の寄贈によりチンパンジーの放飼場内に高さ9.2メートルのタワーを建てました。柱は3本で、柱と柱の間隔は3メートル、棚は4段あります。目的は遊具と放飼場の限られたスペースを立体的に有効活用しチンパンジー達に動きと休息の場を与えることにあります。

野生のチンパンジーの場合、移動は地上を歩きますが、夜間や休息をとるときには、木の上に枝葉を折ってベット

を作り、そこで休む習性があり半地上、半樹上の生活をしています。当園でも野生での木の代わりにするタワーを建てたわけです。

昨年10月27日、タワーの工事が終わり、初めて4頭のチンパンジー（オス：サンタ、メス：ピータン・ジージョ・ナーサ）を放飼場に出しました。約2週間ぶりに出た放飼場には巨大なタワーが建っているのですから、4頭そろって大騒ぎです。少し近づいたり離れたりを繰り返し、初めにタワーに手をかけたのはメスのジージョ、続いてメスのピータンでした。この2頭は躊躇することなく最上段まで登りました。しかしメスのナーサはタワーに手をかけるのがやっとで、オスのサンタはこの日タワーに近づきはするのですが、触ることも出来ませんでした。2日目、メス3頭は頻繁にタワーに登りましたが、オスのサンタはこの日も触ることさえありませんでした。警戒心が強いのかタワーに初めて登ったのは放飼場に出しはじめて4日目のことです。

現在では完全にタワーに慣れていますが、寒い日が多くあまり登っているところを御覧になれないかもしれません。春になり、暖くなれば頻繁に登ると思いますので、ぜひタワーに登っているところを見に来ていただきたいと思います。

中村 智行 (Tomoyuki Nakamura)

目次

CONTENTS

表紙【ニホンキジ】	①
トピックス【チンパンジー舎のタワー】	②
フタユピナマケモノの人工哺育	③
大人の飼育体験	④
いってらっしゃい モモタロウ	④
冬の動物公園の野鳥	⑤
ボランティアから	⑤
動物公園の動物【ワタボウシパンシェ】	⑥
動物病院から【些細な裏技?】	⑥
動物公園日誌から【'08.10/1~'08.12/31】	⑦
ちばZooフェスタのお知らせ	⑧
サポーター会員募集のお知らせ	⑧
Information	⑧

表紙の動物説明 ニホンキジ

2008年春号でキジ目の種類が多いのは、すでにお話したところですが、今回はニホンキジです。キジ属の中で2種に分類され、1種はタイリクキジ（コウライキジ）もう1種がニホンキジです。その中でさらに、キタキジ・キュウシュウキジ・シマキジの3亜種に分類されます。

また、ニホンキジは、コウライキジとの交雑はもとより、ニワトリ属やヤマドリ属との自然雑種やキンケイ属との人工雑種など属間雑種もできます。当園の展示個体も、どの亜種か又は雑亜種かは不明です。開園当初は、園内に野生のキジが生息していましたが、周辺が開発されたため現在は姿を見ません。

ある新聞記事に、「戦後間もない頃に駐留していたGHQの野外生物課長が野鳥保護を日本政府に勧告し、当時の文部省は鳥類保護思想を広めるため、国鳥をキジと決めたそうです。米国の国鳥（ハクトウワシ）は現在保護対象種だが、日本のキジは、今でも狩猟ができる。」と掲載されていました。

しかし、上記のような理由で在来種の純粋亜種は数が減っているのではないのでしょうか？

小林 正典 (Masanori Kobayashi)

撮影：宮川 千尋 (Chihiro Miyakawa)

動物飼育数

平成20年12月末現在の飼育数

Classified number of animals
as of 31.Dec.2008

哺乳類	66種	436点	両生類	1種	2点
鳥類	72種	299点	魚類	1種	2点
爬虫類	6種	30点	総計	146種	769点



フタユビナマケモノの人工哺育

それは昨年(2007年)の8月26日、私が動物科学館内のバードホールで作業をしていた時のことです。地面から聞きなれない声が聞こえてきました。よく見ると木の下に動物が腹這いになって鳴いています。最初は何の動物だか分らなかったのですが、よく見るとそれはナマケモノの赤ちゃんでした。どうやら母親が育児放棄、または何らかの理由で産んだ子供を落としてしまったようです。親に戻すことも考えられましたが、以前も同じ母親が子供を落としてしまい、その後母親に戻したものの再び子供を落とし、死なせてしまったという経緯もあり、今回は人工哺育に切り替えました。

まずはどんなミルクをどのように与えるかで悩みました。調べてみるとナマケモノの人工哺育は日本の動物園でほとんど例がなく(3例のみ)、半年以上生きた例は鹿児島県の平川動物公園しかありませんでした。さっそく電話で問い合わせ、当時の様子を知っていた獣医さんにお話を伺うことができ、その時の記録もFAXで送っていただきました。併せて外国の文献も調べ、ヤギミルクが良いということで、それを与えることにしました。

最初は1日5回、朝の7時から夜9時までの間にミルクを飲ませました。なかなか自主的には飲んでもらえず、注射器の先に脱脂綿を付けて少しずつ口に含ませながら与えました。



段々と飲む量が増えていった13日目、ミルクの後何か食べたそうに私の指をしゃぶるので、少し早いかもしれないのですが、すりおろしたリンゴを与えると、不器用ながらもそれを食べてくれました。その日からミルクと併用して、バナナ、リンゴ、アボガド、レタス、キャベツ、(以下すべて蒸かした)サツマイモ、ニンジン、カボチャなどを与えていきました。

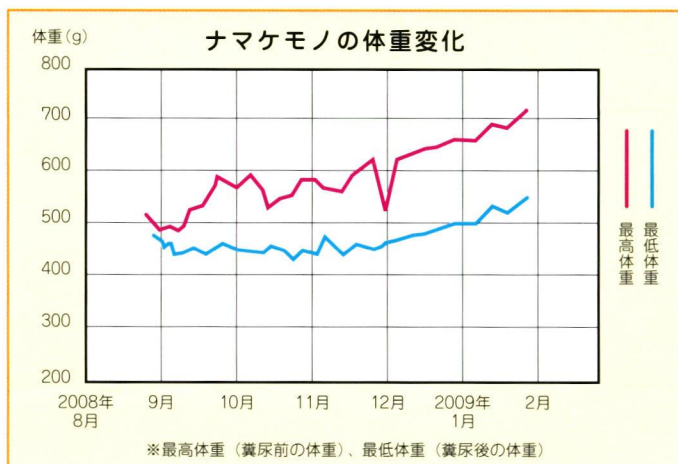
さてここまでは一見順調のように思えますが、その後思ったように体重が伸びてくれません。ナマケモノは本来、1週間に1度くらいの割合で木から降りてきてその根元に糞尿をし、また木の上に登ってしまいます。赤ちゃんもやはりそのパターンのように、5日から7日に1回、糞尿をします。そうするとせっかく



体重測定の様子

増えてきた体重が元に戻ってしまうのです。580gくらいになった体重が1回の糞尿で450gくらいに減ってしまいます。1回の量にして約130g、体重のほぼ4分の1が一気に失われてしまうことになります。確かに体重が最大のころはお腹がかなり張ってきて、食欲も落ちます。しかしナマケモノは本来そういう生態のようで、胃が食べ物でいっぱい状態の時はその重さは体重の3分の1まで達するそうで、それが消化されるのには1カ月近くも要するようです。それでも少しずつでも増えていってくればよいのですが、その辺の体重を推移するという状態がかなり長く続き、我々スタッフを悩ませましたが、現在は糞尿前の体重が700gを超え、糞尿後も500gを上回るようになってきました。それでも実際母親が育てている子供に比べればとても順調に生育しているとは言えません。試行錯誤、悪戦苦闘の毎日でした。出来の悪い親で恐縮千万ですが、ナマケモノの赤ちゃんはそんな私を慕ってくれます。もっと“刻苦勉励”していつかは一人前のナマケモノに育て上げる、それが私の願いなのです。

伊藤 泰志 (Yasushi Itoh)

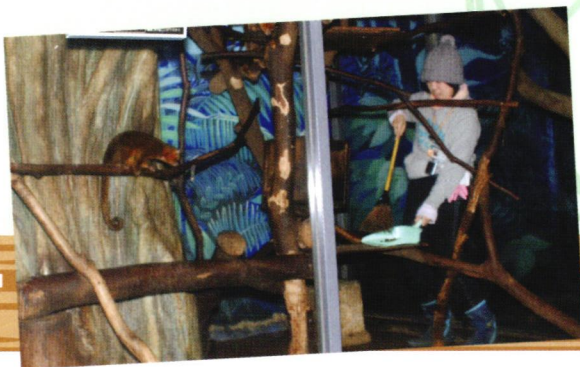


大人の飼育体験

当園では、18歳以上の方で、動物が大好きな人、子供の頃飼育係に憧れていた人、飼育係になりたい人等を対象に、飼育職員と一緒に1日動物飼育を体験していただき、魅力的な動物たちとの触れ合いを通して、動物公園の役割り等を理解していただきたいということで「大人の飼育体験」を4年前から始めています。

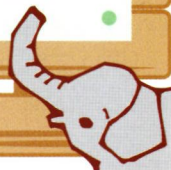
昨年の12月14日には第5回目が行われました。当日は、じっとしていると凍えるような氷雨で、参加される皆さんが来てくれるだろうかと心配しましたが、ありがたいことに集合時間の8時40分には、作業服や長靴等を入れた大きなバックを持って、最年少18歳から最高齢61歳の参加予定者全員が来てくれました。

オリエンテーションの後、9時から各飼育担当者につ



いて飼育体験をしていただきました。キリン担当の私には2人の女性の方が付きました。あいにくの氷雨で高齢なキリンは、雨が止むまで出せないで部屋に留まっていた。でも女性の方達には幸運だったのか、ゆっくりとキリンとご対面できました。こちらの話も上の空の様子で、「すごい～、すごい～」と奇声をあげてキリンに見入っていました。一段落後、動物達が展示場に出て行った部屋の掃除を行い、次に調理場で夕方の餌の準備をし、午前の飼育体験を終えました。午後からは、園内見学後再び飼育体験を行い、4時に無事に終了しました。最後に皆さんにアンケートをお願いしましたが、「一番印象に残ったことは何ですか？」の問いに、「バクの鼻のなんとも言えない柔らかさ」、「ゾウがこんなに大きいのか!」、「アシカに真近で魚を与えた」、「干し草をほぐした時の匂いと手触り」、「レッサーパンダに餌をせがまれた」、「ビーバーの立ち姿がかわいかった」等々皆さんの感動が綴られていました。「仕事の目的の一つは、人を喜ばせること。それによって仕事の中身も向上していく」とある職人の方が言っていたのですが、私も参加者とのやりとりの中で教えられることも多々あり、改めてその言葉を実感した一日でした。

佐藤 幹雄 (Mikio Satoh)



いってらっしゃい モモタロウ

2000年7月3日に上野で生まれ、2002年7月8日に当園に戻ってきたモモタロウも早8歳。その間すべてモモタロウの担当だったわけではありませんが、代番を含め一番関係が長かったように思います。

モモタロウが戻ってきた時は2歳のやんちゃ盛り、展示場をめいっぱい使って、草遊び・砂遊び・ボール遊び・水遊びなどで、1日の大半を過ごしていました。展示場に植えてあったケヤキの木には、細い枝の先端まで登り、転落しないかと関係者をハラハラさせたものです(危ないのでその後、枝の先端は切り落としました)。外だけではなく室内にもロープを張ったり、ブランコを作ったところ、こちらもよく遊んでくれました。

常にモモコと一緒にいたことで困ったことが、食事の問題でした。育ち盛りのモモタロウの分とモモコの分を出すわけですが、どうしてもモモコが多く食べてしまい、モモコがふっくらとした体型になってしまったことです。そこでモモコが見ていないところで、そっと扉の柵越し

にモモタロウにリンゴやバナナ・おにぎりなどを与えました。

こう書いてくると良い幼児期を過ごし、微笑ましい親子関係に見えるかもしれませんが、ゴリラとして見ると重大な問題があったのです。それは、ゴリラは本来社会性のある動物で、小さいころから仲間や父子との関係を通して「ゴリラ社会」を学びながら育っていくものなのですが、それが出来なかったのです。

今回、上野に行っても父親のビジュはもういません。上野でいろいろな仲間と暮らすことで社会勉強をして、経験を積み、日本のゴリラ社会のためにがんばってほしいと思っています。国内ではモモタロウより若いオスゴリラはいないので、その意味も込めて、さようならではなく「いってらっしゃいモモタロウ。」

伊藤 泰志 (Yasushi Itoh)



冬の動物公園の野鳥

動物公園では、四季折々の野鳥を見ることが出来ますが、観察しやすいのは冬で、特に大池周辺ではかなりの鳥を観察することが出来ます。住み着いているカルガモ・カイツブリやシジュウカラを始め、渡り鳥のオシドリ・コガモ・ツグミ・シメなど開園以来観察された野鳥は70種類に上り、2月1日に開催されたバードウォッチングでも20種類の鳥が観察されました。年によって差があるとはいえ、以前に比べると少なくなっているのは千葉市の都市化の影響でしょうか。それでも当園の大池が渡り鳥が羽を休める絶好のポイントとなっているのは、奥の部分には人が立ち入らないため鳥にとって静



かな環境になっているからと思われます。しかし観察する側からすれば鳥がゆったりとしている大池の奥を観察したのですが、近づけないもどかしさがあったことも事実です。そこで、大池の奥まで観察することが出来る観察場所（写真）を今年度設置いたしました。ここからでしたら、鳥を驚かさずに観察をすることができますのでご利用ください。

宮川 千尋 (Chihiro Miyakawa)

今年の冬、見られた鳥

カイツブリ科	カイツブリ	モズ科	モズ
サギ科	アオサギ	ヒタキ科	ルリビタキ シロハラ ツグミ ウグイス
カモ科	オシドリ コガモ マガモ カルガモ	エナガ科	エナガ
タカ科	オオタカ	シジュウカラ科	シジュウカラ ヤマガラ
ハト科	キジバト	メジロ科	メジロ
カワセミ科	カワセミ	アトリ科	アトリ カワラヒワ ウソ シメ
キツツキ科	コゲラ	ハタオリドリ科	スズメ
セキレイ科	キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ	ムクドリ科	ムクドリ
ヒヨドリ科	ヒヨドリ	カラス科	オナガ ハシボンガラス ハシブトガラス

モウコノウマは、ただの馬ではありません

動物公園で派手なオレンジ色のジャンパーと帽子の人を見かけたら、それは私たちボランティアです。私たちは、動物の解説やイベントの手伝いなど、動物公園をより楽しい場所にするために各自できることをしています。

私はおもに大型類人猿と家畜原種ゾーンの動物の解説をしています。黙っていても人が集まるゴリラやオランウータンと違い、家畜原種ゾーンでは多くのお客さまが立ち止まらずに通り過ぎて行かれるので、解説を始める



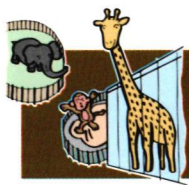
きっかけをつかむのが最大の難関。珍しいモウコノウマの前も「あ、ウマだ」などと言いながら歩き続ける方が大半です。ある日、思い切って大きな声で呼びかけました。「皆さん、ここにいるモウコノウマは、ただの馬ではありません。とても珍しい貴重な馬なんですよ。どうぞ足を止めてご覧になってください。」なんだかスーパーの宣伝販売みたい。でも10人ほどの人が立ち止まってくださいました。そこからは、暗記してある台本通りに一生懸命解説。ありがたいことにタイミングよく、クリスとトメキチがゆっくりと目の前を横切って、モウコノウマの特徴であるタテガミと背中中の線を周近に見せてくれました。

解説を終えると、ひとりの女性のお客さまが目丸くしてこうおっしゃったのです。「本当にお話を聞けてよかったです。ただの馬かと思いました。」……ヤッター！動物の近くで動物の話ができるだけでも楽しいのに、こんな感想まで言っていただけたとは。

お客さまの一群を見送って振り向くと、クリスが正面に立って私をじっと見ています。「クリス、協力してくれてありがとうね」と声をかけると、クリスは「フンッ」と鼻を鳴らし、ほんの少し笑ったように見えました。

金森 美智子 (Michiko Kanamori)





動物公園の動物

ワタボウシパンシェ



逆立った白い頭部の飾り毛がまるでネイティブアメリカンの酋長のような独特な風貌を持つ、中南米原産のワタボウシパンシェ。来園者の目に留まり易いのか「この動物に名前は付いているのですか？」と聞かれることが多々あるのですが、特に愛称のようなものは付けていません。だからといって愛されていないとか、ないがしろにされているということでは決してなく、複数の呼び名で大切に管理されています。

まず1つめ。ローカルIDといって園独自で歴代個体それぞれに通し番号をふってあります。ちなみに '09年1月31日現在、'08年10月27日生まれのものがNo.113で最も新しい個体となっています。

2つめはマイクロチップ。これは最近ペットショップで売られている犬などにも導入されて、盗難防止や個体情報管理などに役立っています。千葉市動物公園でも生後1年経ったところに注射器のようなものを使い、皮下に埋め込みます。これを専用の読み取り機器を使って埋め込んだ付近をかざすと15桁の数字が表示され、これがその個体番号になります。

3つめが国内登録番号です。日本全国にワタボウシパンシェを飼育しているところが23園館あり、生まれの早いもの順に番号をふっていきます。これに親の番号、どこで生まれ、現在はどこにいるか、など細かい情報を載せたものが血統登録台帳といって毎年を更新を当園が担当しています。この台帳更新の他に個体の移動の調整も行っており、現在も5園館の移動・交換が進行中となっています。

ここで担当者の頭を悩ませるのが血縁関係です。遺伝的多様性を維持させる為に近親交配を避け、血縁の遠い個体同士のペアリングを成功させるよう限られた頭数の中、最適な相手が見つかるまで台帳とにらめっことなります。今回の移動によって各園館で新しいペアが誕生し、繁殖につながってくれるのを願うばかりです。

樽川 修 (Osamu Tarukawa)



動物病院から

些細な裏技？

動物園では、動物の個体を見分けることはとても大切なことです。動物を診療する時も誰なのか分かれば、以前の記録もさかのぼれて大いに役に立ちます。

その見分け方ですが、大きな動物や数が少ない動物、特徴のある個体ならば簡単です。でも同じような色や大きさで数が多い場合はどうでしょう？ たとえばテンジクネズミのように模様を見たり、ホンドザルのように入れ墨を入れて見分ける方法があります。最近はマイクロチップを入れるようになって確実ですが、専用の機械がなければ番号が読み取れず、見た目では分からないのです。

さてある時、マダカスカルホシガメというリクガメが7頭、園にやってきました。大きさも多少違い、甲羅には番号を書いたガムテープが貼ってあったので一応個体を見分けることはできました。しかし、時間がたつとテープがはがれてきて、読めなくなるだけでなく、糊の跡が残ってべたついたり、はがれるときに甲羅の上の層も一部はがれたりしてしまいました。今度はどうやって印をつけたいのでしょうか？ 他のカメの甲羅にマジックで書いてみたことがあります。数日でわからなくなり、これはだめでした。でも大丈夫、甲羅に書くのに丁度良いものがあるので。何だと思いますか？

以前、ある動物園に行った時のことです。繁殖したたくさんの子ガメの甲羅に其々くっきりと番号が書いてあるではないですか。これならすぐに誰だか分ります。何で書いたか、聞いてみると担当者の答えは何と「マニキュア！」意外ですが、なるほど考えてみると爪も甲羅も同じようなものかも？

早速私もマニキュアを買ってきて、甲羅に番号を書いてみました。これで一目で見分けがつかます。濡れても平気で結構長持ちするし、剥けても書き直しも簡単で具合がいいようです。これもちょっとした裏技と言えるでしょうか？

辻村 直美 (Naomi Tsujimura)





動物公園日誌から

From Zoological Park Diary

'08年10月1日~'08年12月31日

- 10月1日 コングウインコ類 (6羽)、体重測定 ルリ (No.14): 882g、(No.15): 1,030g、ベニ (No.3): 1,364g、(No.4): 1,352g、スミレ (No.1): 1,410g、(No.2): 1,320g
- 10月2日 カンムリヅル (2羽)、アフリカ草原Aに放飼する
- 10月3日 アジアゾウ (雄)、ターゲットトレーニング中、途中で怒り出したため中止
- 10月4日 アカハラコノハドリ (雄)、死亡
- 10月5日 セキショウヤケイ (雄)、死亡
写真教室開催
- 10月7日 レッサーパンダ、体重測定 チイタ: 2,190g、クウタ: 1,990g
チンパンジー、放飼場に「やぐら式遊具」設置のため、本日より屋内展示スローロリス、展示の雌が雄の放飼場に入っていたので、そのまま同居させるが雌が雄を追い回すので夕方には分ける
- 10月9日 グレベシマウマ (メグミ)、出産するが仔が自力で立てない ミルクを飲めないで飲ませるが夕方死亡
- 10月10日 タチョウ (雄)、死亡 (老衰)
- 10月11日 スローロリス、展示場の仕切り隙間を補修
- 10月12日 ワンポイントウォッチング (エリマキキツネザル)、開催
- 10月14日 ホンドザル、全頭捕獲しマイクロチップ確認 (脱落個体は再挿入)
昨年生まれの子は破傷風予防接種
- 10月15日 レッサーパンダ、体重測定 チイタ: 2,550g、クウタ: 2,160g
チンパンジー、11:30より屋外へ出す
ブタ、体重測定、チャーシュー: 79.3kg、マーボー: 70.1kg
ロバ、体重測定、マツ: 79.6kg、ブラム: 103kg、コウメ: 52.8kg
ウマ (ボニー)、ジュディー: 134.6kg
ヤギ (メス)、死亡
- 10月16日 レッサーパンダ (雄: ユウタ)、秋田市大森山動物園へ搬出
- 10月17日 マンドリル、新しい雌、シュート上下でお見合いをする
- 10月18日 バタスザル (雄)、フェンスに右腕を入れて抜けなくなる 数名で押さえこんではずす けが等はなかった
- 10月19日 チンパンジー、「やぐら式遊具」設置のため屋内放飼する
- 10月20日 エンペラータマリン (2頭)、繁殖 人工哺乳を開始する
ハゴロモヅル (雌)、放飼場で動かなくなり立てないため、総合獣舎へ収容し、ビタミン剤を注射する
- 10月21日 ショウガラゴ (雌1頭)、日本モンキーセンターより新着
シタツンガ、ミドル (雄) を群れに戻すがノブ (雄) との闘争になったため、ノブは分けて通路に出す
実習生2名 (東京アートコミュニケーション専門学校、国際動物専門学校)
- 10月22日 大宮中学校、職場体験 (2名)
- 10月24日 ハゴロモヅル (雌)、強制給餌を行う
- 10月26日 エンペラータマリン (1頭)、人工哺乳の仔死亡
ショウガラゴ (雄1頭)、日本モンキーセンターへ搬出
- 10月27日 ゾウ (雄)、ターゲットトレーニング中、鼻を振り威嚇してきたので中止する
チンパンジー、13:00より「やぐら式遊具」設置した放飼場へ試験放飼する ビータン、シージョは上るがサンタは2段目までしか上らず、ナーサは上らない
ワタボウシパンシェ (2頭)、繁殖 1頭は親の背中に乗っているが、もう1頭は落下していたので親に戻した
ワタボウシパンシェ (1頭)、10月27日生まれの仔、死亡
- 10月28日 レッサーパンダ (チィチ、チイタ、クウタ)、夕方、木に登って降りてこないで、追って収容する
- 10月29日 フタユビナマケモノ、人工哺乳の仔のケージに止まり木を入れる
ハゴロモヅル (雌)、死亡
- 10月30日 エンペラータマリン (人工哺乳の仔)、体重が伸びない
- 11月1日 オグロマーモセット (2頭)、繁殖
- 11月2日 Zooクイズラリー開催
- 11月3日 アビシニアコロプス [キクユ] (1頭)、朝、子供が生まれていた
- 11月4日 チンパンジー、朝から放飼場へ出す ビータン、シージョはやぐらに上る サンタはたまに上がっていた
- 11月5日 チンパンジー (雌: ナーサ)、やぐらの最上階まで上る
- 11月6日 アビシニアコロプス [キクユ]、仔を雌同士が取り合いをしていたが、夕方は母親が授乳していた
エリマキキツネザル (検査中の個体)、朝排便してあるが、硬結した糞 (便秘)
- 11月8日 エリマキキツネザル (検査中の個体)、便状ほとんど正常になる 食欲、元気も回復
- 11月9日 レッサーパンダ (風太)、ササの台から落ちるが異状なし
ワンポイントウォッチング (ケープペンギン)、開催



- 11月10日 ハイログガン、トナカイと一緒に放飼する トラブルなし
- 11月11日 幕張本郷中学校生徒 (12日まで)、職場体験 (8名)
都賀中学校職場訪問
- 11月12日 ケープペンギン、産卵
- 11月13日 モウコノウマ、マウントをする
上野動物園より、ゴリラ担当者が研修 (ゴリラ移動のため)
- 11月15日 ケープペンギン、産卵 (2卵目)
- 11月17日 キジ類・猛禽類等、ニューカッスル予防接種

11月18日

- アフリカハゲコウ (2羽)、検査明け
- 11月19日 大森小学校・寒川小学校にて出張授業実施
- 11月20日 泉谷中学校生徒 (8名)、職場体験
- 11月21日 上野動物園より、ゴリラ担当者が研修 (ゴリラ移動のため)
- 11月22日 秋の講演会開催 (講師 絵本作家 木村裕一氏)
- 11月26日 貝塚中学校生徒 (8名)、職場体験

さつきが丘東小学校にて出張授業実施

長野県須坂市動物園へオグロブレイリードッグ (2頭) 搬出、テンジクネズミ (3頭) 搬入

11月27日 姉崎中学校、職場訪問

11月28日 上野動物園へ、ゴリラ担当者研修 (ゴリラ移動のため)

11月29日 ゴリラ (モモコ、モモタロウ) お別れ会
フンボルトペンギン (雌1羽)、呼吸が荒く横になっていることが多いため隔離し治療開始する

11月30日 ムフロン、雌3頭を繁殖のため雄群れに入れる 成雄、雌をめぐり盛んにからむ 雌は落ち着かず

12月1日 ゴリラ (モモコ、モモタロウ)、明日、上野動物園へ移動のため輸送檻に収容



12月2日 ゴリラ (モモコ、モモタロウ)、上野動物園へ搬出

レッサーパンダ (風美)、新しい放飼場からガラス柵の支柱を登り脱出する 担当者が捕獲する

12月3日 若松中学校、職場訪問

12月4日 アビシニアコロプス (雌)、朝、動きが悪く捕獲し、病院へ移動するが死亡する

フンボルトペンギン (治療中の個体)、死亡
ケヅメリクガメ (小さな個体)、餌は毎日食べているが、1週間以上、排糞なし 温水浴をさせる

12月7日 ケヅメリクガメ (小さな個体)、温水浴を30分する お湯の中で尿酸塩を排出する

ワンポイントウォッチング (カピバラ)、開催

12月8日 上野動物園より、ゴリラ2頭 (ケンタ: 雄、ローラ: 雌) 来園 2頭とも餌は食べるがローラはいじけている様子

12月9日 キクユコロプス (雄)、元気がなく下痢のため入院
ゴリラ (新着2頭)、交互にシュートにあげ、寝室を清掃する 餌は手渡しで受け取る

12月10日 エリマキキツネザル (雄)、死亡 (肝癌がん)

12月13日 Zooキッズデー開催

12月15日 ゴリラ (ケンタ)、10:00より11:00まで屋外に出す 緊張している
ゴリラ (ローラ)、13:00より屋外へ出す 14:00に収容を試みるが入らず その後、再三収容を試みるが入らないため22:00よりシュートを開けたままにし、室内に入れるようにしておく
ゴリラ (ローラ)、昨夜から朝まで屋外にいた様子 モンタを隣の放飼場から入れて追わせると、すぐに室内に入る

12月16日 バタスザル (雄)、死亡 (心内膜炎)

12月17日 クリスマスシアター開催

12月21日 ゴリラ (ケンタ)、10:00より屋外放飼する 前回よりリラックスしており、しばらくして最下段に降りる よく動き時々走る ドラミング3回あり 11:00に収容を試みるが、11:50に入る

12月22日 コアリクイ (仔)、親の背中より降りて親とともにアボガドを食べだす 体重: 1,100g

ケープペンギン、1羽孵化

12月26日 ケープペンギン、1羽孵化



12月29日 ニホンリスの日当たりが悪いので、ミケリスとの間のコンパネを透明板に換える

12月30日 フサオマキザル、今年生まれの仔、最近母親の背に乗っていることが多く、元気がなさそうなので母子とも捕獲し入院 削腹気味だが、採食はする

12月31日 ナマケモノ (仔)、午前中しきりに鳴いており、11:30ごろ少しぐったりしているため、保育器に移す その後17:00のミルク、離乳食ほとんど食べない 目が少し出ている感じ

浅野 洋之 (Hiroyuki Asano)

編集後記

園内では、そろそろ春の息吹がいたるところに感じられるようになりました。3月18日からは、動物公園の様々な楽しみを5日間にまとめた“ちばZooフェスタ”を開催します。飼育係と仲良くなったり、クイズで動物のことが分かれば、動物公園での一日も楽しみが倍増するでしょう。

今、一番期待しているのは、今号の記事中のフタユビナマケモノの成長ですね。無事に大きくなって、パードホールにいる様子をぜひ皆さんに探してもらえようになればと願っています。

どうぶつこうえんニュース編集委員

ちばZooフェスタ

いっしょにあ・そ・ぼ！ 開催

3月18日(水) ~ 22日(日)

*主なイベント

詳しくは
プログラムで!!

飼育係となかよくなろう

どうぶつクラフト

人気アニメ

キャラクターショー



動物取扱業者標識

①氏名または名称	千葉市
②事業所の名称	千葉市動物公園
③事業所の所在地	千葉市若葉区源町280
④動物取扱業の種別	展示
⑤登録番号	第50015号
⑥登録年月日	平成19年7月30日
⑦有効期間の末日	平成24年7月29日
⑧動物取扱責任者	飼育課長 小林 正典

千葉市動物公園
Chiba Zoological Park

サポーター会員募集

(財)千葉市動物公園協会では、動物に関する知識と動物愛護の精神を普及することを目的に「サポーター会員」を募集いたします。

年会費(入会日~翌年入会月末) 個人会員 1,000円(1口)

法人会員 10,000円(1口)

オリジナルグッズプレゼント♪ サポーターズデイに無料ご招待!

お問い合わせは ☎043-252-1111

Information

平成21年 3月・4月・5月の 催し物一覧

- ★ 3月15日(日) ワンポイントウォッチング(ウシ)
- ★ 3月18日(水)~22日(日) ちばZooフェスタ
- ★ 4月19日(金) ワンポイントウォッチング(エジプトハゲワシ)
- ★ 5月10日(日) サポーターズデイ(朝の動物園見学他)
- ★ 5月10日(日) バードウィーク講演会
- ★ 5月17日(日) ゆかいな森の音楽会

法人サポーター 会 員 (順不同)

(株)動物公園協会の
(株)和光物産商会
(有)カンタ事務機
(株)新星医薬商事
千葉商工会議所
(財)千葉市国際交流協会
ジェノスグループ(株)
(株)ニッセイアド
千葉県米穀(株)
大西総業(株)
(株)さわらび
利根コカコーラボトリング(株)
千葉都市モノレール(株)
関東フローズン(株)
(財)千葉市観光協会

どうぶつこうえんニュース第71号
平成21年3月1日発行

編集
発行

千葉市動物公園 <http://www.city.chiba.jp/zoo/>

(財)千葉市動物公園協会 <http://www.chibazoo.net/>

〒264-0037 千葉市若葉区源町280番地 280 Minamoto-cho Wakabaku Chiba-City Japan.

(総合案内) ☎043-252-1111